

平成 27 年 9 月 28 日  
教育長答弁実録  
（教育委員会）

（問）学校統合に伴う生徒へのフォローについて

生徒数の少ない定時制課程の高校は、仕事をしながら学業を行うという従来の役割に加え、近年、大人数の学校に馴染めず小学校や中学校で不登校を経験した生徒や、全日制高校に入学後、学校に馴染めず中途退学した生徒が、落ち着いて学習する場としての役割が増している。

この他にも、高校に行くことができなかつた様々な年齢の方が、学び直したいという思いを持って入学するようなケースもあり、多様な生徒の学びの場として、大変重要な役割を担っている。

新たに設置されるフレキシブルスクールは、従来の定時制課程と比較すると、生徒数が多く、このような生徒にしっかり対応し、落ち着いた環境で、学習させていくことができるのか、不安に思う部分もある。

また、県内の 6 校を統合して設置するこの学校の通学圏域は、統合前の定時制課程よりもはるかに広く、例えば、現在、海田高校の定時制課程に通っている生徒が、フレキシブルスクールに通うと、通学時間が何倍もかかってしまう場合があるのではないかと危惧している。

少人数の定時制課程でなければ通うことのできないような生徒が、新たに設置されるフレキシブルスクールに通うことができるよう、どのような工夫をしようしているのか、また、通学距離の長い生徒に対し、どのような支援をしようとしているのか、併せて教育長に伺う。

（答）

「フレキシブルスクール」には、他者とのコミュニケーション能力が十分に身につけていない生徒など、様々な事情を持った生徒が入学してくることが想定され、こうした生徒が安心して学べるよう、きめ細かな配慮を行うことが必要であると考えております。

このため、一人一人の生徒を個別に担当し、様々な指導・相談に当たるチューター制度の導入や、少人数指導の充実など、個に応じたきめ細やかな指導体制の整備を図るとともに、スクールカウンセラーの配置等による教育相談体制を充実させ、生徒の居場所づくりの工夫を行ってまいりたいと考えております。

また、通学距離が長い生徒に対する配慮といたしましては、生徒それぞれの事情に対応できるよう、午前、午後、夜間と幅広い時間帯に授業を設定するなど、柔軟な学びの形を提供することとしております。

教育委員会といたしましては、広島市教育委員会と連携・協議しながら、多様なニーズにきめ細かく対応し、生徒一人一人が「この学校で学んで良かった」と思える学校づくりを進めてまいりたいと考えております。